

令和3年度
第2回西脇市総合教育会議
議事録

令和3年11月29日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和3年11月29日（月）午前10時00分～

2 開催場所

西脇市役所 中会議室

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	柴垣美紀
教育委員	岸本みのり	委員	藤尾寛

(2) 事務局

教 育 部 長	森脇達也
教 育 委 員 会 参 事	遠藤一博
学 習 環 境 規 模 適 正 化 推 進	高橋芳文
担 当 次 長 兼 教 育 総 務 課 長	
学 校 教 育 課 長	松本亨
学 校 教 育 課 主 幹 兼 教 育 研 究 室 長	衣川正昭

4 傍聴者

なし

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 協議・調整事項

ア 西脇市学校学習環境規模適正化の進捗状況について
イ 令和4年度教育委員会主要事業の概要について

(3) その他

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、令和3年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。本日、事務局を務めさせていただきます、教育部長の森脇でございます。よろしく願いいたします。それでは、開会に当たりまして、片山市長からご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

◎市長

皆さんこんにちは。総合教育会議の開催に当たりましてご挨拶申し上げます。平素より、教育委員の皆様には、本市教育行政の推進に格別のご支援とご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。昨日の教育フォーラムでも報告させていただきましたが、兵庫県選出の末松参議院議員が文部科学大臣に就任されたことを受け、先日、教育長と一緒に文部科学省に訪問させていただきました。その時に英語の視学官ともお話をさせていただく機会がありました。視学官というのは、いわゆる先生の上の先生のことです。今回お会いしたのは、全国の英語教育の総責任者の方でした。その視学官の方から、西脇市の小中学校の英語教育が素晴らしいということで、非常に良い評価をいただきました。内容としては、小中学校の先生方がチームで英語教育という未知の世界に取り組んだ部分を特に評価していただき、非常に嬉しい気持ちになったとともに、これからも続けていき、より高いレベルに上げていただきたいと思いますので、こちらでご報告させていただきます。関連して、毎年小学校6年生と中学2年生の授業を拝見させていただく機会があるのですが、今年は教育研究室長に、新しい英語の教材を作ってほしいと依頼をさせていただきました。リクエストした内容は、子どもたちが西脇市のいいところを英語のラップで歌えるようなものということでお願いしたのですが、非常にいいものを作っていただきました。できた教材が、QUEENの「WE WILL ROCK YOU」の替え歌で、西脇中学校吹奏楽部の演奏に乗せて、桜丘小学校の教頭先生に歌っていただいた動画です。初めて見たときに衝撃を受けまして、非常にいいものを作っていただいたので、是非お帰りになる前に皆様にご覧になっていただきたいと思います。実際の授業では、動画を見ながら子どもたちと一緒に歌うのですが、まず、子どもたちが歌詞を覚える早さに驚きました。そして、小学校6年生の子どもたちが既に、中学校で習うような英単語の意味や発音を理解しており驚愕しました。西脇市では、約5年前に兵庫県で初めて「G-T E C」を小学校に取り入れました。いまだに「G-T E C」についてよく知らない他市町も多くある中で、西脇市では既に根付いており、教育への投資が先程説明させていただいたようなかたちで、成果となって表れているのだと実感しております。なかなか難しいことだった

と思うのですが、教育長の先見性及び現場に根付かせる努力は非常にありがたいことだと思っています。話を本題に戻しまして、本日の総合教育会議では、1つ目に「西脇市学校学習環境規模適正化の進捗状況について」、2つ目に「令和4年度の教育委員会主要事業の概要について」協議をお願いしたいと思っております。忌憚のない議論をよろしくお願い申し上げます。

○事務局

この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、片山市長にお願いしたいと思います。市長、よろしく申し上げます。

◎市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。岸本委員、藤尾委員、両氏に申し上げます。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願ひいたします。

◎市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「西脇市学校学習環境規模適正化の進捗状況について」説明させていただきます。担当課から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。何かご意見やご質問はございませんか。

○委員

問題の根本に人口減少・少子化があり、非常に大きくて困難な問題だと思っています。市民の方や議会からも、「統廃合」という言葉を聞くことが多いです。市民の皆さんの理解を得るためにも、「未来に向けた統合」によって、新しいステップに向かうということを全面的に押し出す必要があると思っています。「廃校」となると、母校がなくなってしまうというマイナスな感情が強くなってしまいます。私自身、西脇幼稚園を卒業して、最後の卒園式の時に来賓として行かせていただいたのですが、非常に思い入れがあるので抵抗感がありました。西脇市として「未来に向けた統合」を目指していくということが一番だと思っています。また、子どもにとって望ましい環境ということをよく記載されていると思いますが、それを大人だけで考えるのはどうかと思います。中学生ぐらいの年齢になると、自分が学んできた環境を振り返ることができるので、中学生から小学校高学年ぐらいの子どもの意見も一度聞いてもいいのではないかと思います。今までの時代であれば、100年経ってやっと時代が変わっていくようなペースだったのですが、ここ最近では、10年単

位で非常に大きな変化が起こっているような気がしています。子ども達が置かれている状況は非常に大変だと実感しています。だからこそ、子どもや地域も一緒に考えなければならないと思います。人口減少や少子化等の課題は国全体の課題になるので、西脇市単独ではなかなか難しいと思いますが、子ども達の数が少ないなりに、子ども達がきっちり学べて気持ちよく学校に行けるような学校配置をやっていかなければならないと思います。地域色を出すこともいいのですが、地域色を出しすぎると時代の変化に対応しきれずに停滞してしまうのかなと思う部分もあります。校区ごとの特色も大事ですが、市長から西脇市の英語教育についていい評価をしていただいた話があったように、西脇市全体を校区として捉えるようなイメージで、西脇市全体の教育の底上げを図るやり方がいいのではないかなと思いました。

○委員

失礼します。私からは就学前の保護者の方から聞いたことを中心にお話しさせていただきます。広報の記事や市議会議員の方のパンフレット等で、西脇市立学校学習環境規模適正化に関する内容について目にする機会が増えてきたように思います。前回の地域説明会に出席された就学前の保護者の方から話を聞く機会があったのですが、実際に説明を聞いて、ここまで少子化が進んでいたのか、これから西脇市はどうなっていくのかという話をされていたようで、説明会に出られていない保護者の方にもそういう話をされていたようです。そのように人づてで徐々に広がっていることについて嬉しく思いました。ただ、私は小学校・中学校・高校の子どもがそれぞれいるのですが、塾や部活動の送迎で、夜はほとんど出られない状態です。実際に夜の会議に出にくいという声も聞きました。是非、いろいろな方に話を聞いていただきたいと感じています。

◎市長

ありがとうございます。ということは、夜の時間によく審議会や説明会がありますが、若い世代の保護者の方も含め、出席できない保護者の方は多いのでしょうか。

○委員

そうですね。やはり子どもの送迎があるような保護者の方にとっては、少し出にくい時間帯だと思います。

◎市長

非常に具体的な提案ですが、事務局から何かございますか。

○事務局

就学前の保護者の方への周知説明に関してのご意見だったと思いますが、12月上旬から中旬あたりに、就学前の保護者向けに特化した説明会の開催を予定しています。今回は土曜日・日曜日に開催するというのと、午前9時半から午前11時の部と、午後1時半から午後3時までの部

で、市内4中学校区での開催を予定しています。加えて、子育てグループで勉強会を開催したいという方がいらっしゃいましたので、約50人の保護者に来ていただいて、勉強会を一度平日に開催しております。その時にもさまざまな地域の方に来ていただきまして、その方からまた個別に勉強会したいのというご相談もありました。遠慮なく個別にご相談いただきましたら、希望の時間で、こちらから説明に行くということで対応していきたいと思っています。もし委員さんの周辺でそのような意見があれば、西脇市教育委員会に相談すれば説明に来てくれるらしいと伝えていただければ、こちらから積極的にPRしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

◎市長

事務局より、早速対応していただいているということで、心強く思えます。先ほど委員がおっしゃったように、特に女性の間で、口コミやSNSで早く伝わる人が多いように思えます。周知については部門間を超えて、ミライエの子育て対応の部署から張り紙を出していただくとか、チラシを置いておくとかたちで、市役所の他の部門とも連携を取るようにした方がいいように思いました。また、私が話をお聞きしながら感じたことは、説明会に来た人はわかるけど説明会に来ていない人にはわからない部分を、何とかなくしていきたいということです。先ほどの事務局の説明はわかりやすいですし、説得力があります。また、動画制作ができる職員もいます。ですので、現場の動画を撮って編集して動画を配信するような、誰もが同じものを気軽に見ることが出来る仕組みを作るのはやはりいいのかなと思ひました。

○事務局

実際、動画まではできていないのですが、検討はしております。昨日の教育フォーラムについても、撮影をしておりまして、ユーチューブで配信する予定にしております。

○委員

双葉小学校区に住んでおられる方に話を聞く機会がありましたので、その方のお孫さんが双葉小学校に行く、行かないということについて、どう思われているのかを聞きました。そこで、若い世代の保護者は学校が近くにあるならその学校に行くし、学校がなければないで、あまりこだわりはないのではないかという話をしておられました。その方自身も特に学校へのこだわりはない様子で、何度か地区の会議で学校の統廃合に関するような内容について議論がされているけど、結局何年経っても堂々巡りの話になっているという意見をいただきました。私は比延地区に住んでいるのですが、比延地区では、どちらかといえば保護者世代よりも年齢の高い方が学校にこだわりがあるような印象で、そのような方々に丁寧な説明が必要なのかなと感じています。学習環境規模適正化と

いう複雑な名前を見て、若い人に興味を持ってもらうことはなかなか難しいので、若い人の意見というよりは、年齢の高い方々が納得できるような現状や必要事項の説明がいないかなというご意見をいただいて、私自身勉強させていただきました。

◎市長

非常に重要な視点のお話をいただきました。特に年配の方がこだわりのある印象でしょうか。

○委員

私たちぐらいの年齢の方の中には既に孫がいる方もいらっしゃいますが、少子化によって子どもの数が少なくなっていることを理解している方も多いですし、学年に1人か2人しかいない状況になるのであれば、疑問を持つような方が多いと思います。双葉小学校は小規模特認校ということで、他の地域からある程度入られる方がいらっしゃいますが、逆に地元の子どもが他の学校へ行くという現状もあり、非常に不思議な状況だと思っている方も多く聞いております。そういったことが起きている中、なんとなくではありますが、私たちよりも上の世代の方が、学校を残したいと思われる方が多いような気がしています。会をもって話をしてまわっても、結局同じ話になっているということを知っています。

◎市長

お伺いしていると、町内会長になられているような年齢層の方に、こだわりのある方が多いということは感覚的に分かります。地域に説明に行かれた際にも、そのような層の方が多いような気がします。実際に事務局が説明に行かれたときの感想や、今後の具体的な対応等がありましたらお願いします。

○事務局

検討を進める上で、やはり世代による意見の違いが一番難しいと感じている部分があります。学校を残したいという意見と統合してもいいのではないかという両方の意見があり、世代によって意見が違っています。おっしゃられたように、地域にはさまざまな世代の方がいらっしゃいますので、まずはさまざまな世代の意見を聞かせていただいて、私たちが聞くだけではなく、地域の代表の世代の方にも思いを伝えていくことが一番大事だと思っています。先ほどもお伝えしたとおり、地域の若い人の意見をまず聞いて、次の検討会議や地域会議にその内容を持っていきますので、伝えていくことに徹するしか、現時点では方法がないように思うので、そのあたりを努力していきたいと思っています。

◎市長

月に1、2回程度、市内8地区の町内会長が集まる会議が行われます。その会議で市から説明させていただく機会も多いのですが、私も土地利用の関係で、ここ最近続けてプレゼンをさせていただいており、意見を

いただいております。町内会長の中には影響力のある方も多いですし、その方々に感情的な部分はひとまず置いておき、基本的な数字的な部分や現状をシンプルに伝えることは非常に大事だと思います。ぜひ、教育委員会にもそのような会議に足を運んでいただいて、現状の説明等をしていただきたいと思います。

○委員

私は前回の会議でオブザーバーとして検討会議の委員の方々の意見を聞かせていただき、このような問題があるのだなと認識しました。地元の皆さんのいろいろなお話を聞く中で、実際に学校がどうなるのかという不安を抱えているような意見が多いように感じました。私の世代では、自分のいる校区や通っていた学校がなくなるのではないかという不安が最初に思いつく方が多いと思います。私たちの世代にしても、保護者の世代にしても、やはり不安を覚える方は多いと思うので、不安の払拭を丁寧にしていかなければならないように感じています。説明の中では、現状の数字や将来の数字の他に、立地適正化計画等もありました。国の政策に市の政策を組み合わせ、まちづくりの方向性についても一緒に検討していただき、その枠の中で学校のことを検討していただく必要もあるように感じています。また、学校の運営面や統合等を考えると、財政面について考える必要も出てくるように思います。いろいろな方面の中で意見を丁寧に拾いながら、市民の皆さんの不安を払拭しながらまとめていくということが一番大事だと思います。

◎市長

ありがとうございます。専門的な立場で立地適正化計画についても言及をいただきました。余談にはなりますが、西脇市は立地適正化計画という国の制度の認証を受けることができました。第1回コンパクトなまちづくり大賞を平成30年に受賞することができました。賞金に替わるものとして、立地適正化計画が認められたということで、オリナスの建設費用として約12億円をいただきました。だからこそ、これだけの建物を作ることができたという裏返しにもなりますが、一方で、立地適正化計画ができましたが、いいことばかりではありません。立地適正化計画を一言で表すと、コンパクトなまちづくりにしましょうということになるので、市内の中心部に該当しない地域を切り捨ててもよいのかという意見も必ず出てきます。そういった地域にはネットワークをつくりましょうということ、めぐりんやむすブンのコミュニティーバスが市内を走っている背景として、そのような理由があります。さまざまな点を重層的に考えていかなければならないことで、よいご提言をいただいたと思います。各委員様方の意見を受けて、教育長から何かございますでしょうか。

○教育長

当初、学習環境規模適正化の計画を立ち上げたときから、立地適正化計画やまちづくりの話等のさまざまな議論を出し尽くしました。ようやく回り回ってこのような局面まで来たという印象を受けています。私もほぼ毎回各地域に出かけており、皆さんの意見を一つ一つお聞きしております。教育長としてスピーチを求められる地域もありますし、求められない地域もありますが、求められた場合は、私の思いを伝えさせていただいております。一方で、事務局のトップという立場になりますので、意見を言い過ぎてしまい、私の考えに偏ってしまっただけいけないということもありますので、そのような点も留意しながら、皆さんの意見をお聞きしております。立ち上げた当初から、学習環境規模適正化の問題については、市長とコンビネーションを汲んで取り組まなければいけないと言っておりましたが、市長部局の関係各課にも来てもらい、事務局体制を大きくして今後の対応に取り組んでおります。教育委員の皆さんに先ほどのような意見を言うだけでいいということではなく、もう少し地域の方々の理解を深めていくような努力を行えば、地域の方々にも理解いただけるのではないかと考えております。昨日に教育フォーラムを開催し、約70名の方にお話を聞いていただきました。教育フォーラムの最後に私からスピーチをさせていただきましたが、子ども目線で考えてくださいということと、今後の教育は社会の変化とともに変わりますので、その時のために何をすればいいかという点を間違えないようにしてほしいということのポイントとして伝えました。社会の動き・世界の動き・日本の動き・人口の問題から簡単に触れて、そのような内容を知ってほしいと思いスピーチをさせていただきました。昨日は地域代表の方々やご年配の方々も来られていましたが、年齢の若い方々にも結構来ていただいております。若い人は頻繁にこのような会に出られないので、どちらかというとそのような方々に向かってお話をさせていただきました。今後、出席された方々から教育フォーラムの内容を広めていただいて、次の展開も用意していますので、そこにたくさんの方々に来ていただき、さらに理解を広げていけば、皆さんの理解が広がり、よりよい意見が聞けるのではないかと思います。最後にどのような方向の答申になるかについては、検討会議の委員の皆さんに委ねられますが、事務局としては答申の内容に沿って市長と詰めながら方向を決めていきたいと思っています。久しぶりの総合教育会議ということで、教育委員の方々には新鮮な視点からお話いただきました。非常に感謝しております。ありがとうございました。

◎市長

ありがとうございました。教育長からのお話も含め、委員の皆様からは西脇市全体を校区だという意識を持たないといけないという意見もいただき、非常にいいお話をいただいたと思います。答申について、2月

にいただく予定になっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で遅れており、議論が深まってない部分があると聞いていますが、答申時期を遅らせる話が進んでいるということによろしいですか。

○事務局

最終的には検討会議で決定されることになりませんが、新型コロナウイルスの状況もあり、検討状況の周知と意見聴取ができていないという部分があるため、答申時期の延長について委員の皆さんにご意見をいただく段階です。具体的に何月になるかというのはわかりませんが、事務局としては7月あたりを目途に考えており、2月より延長するかたちで現在進めているところです。

◎市長

ありがとうございます。国や県では中間答申を出されるケースもあります。2月の答申を目標としている中で延長を発表することは公の話になりますので、2月の段階での中間答申を公に出していただく等、途中経過を公にする必要もあるように思いました。また、若い世代に伝えるという点については、ライン・ツイッター・フェイスブック等のSNSや動画を通じて、簡単に分かる数字で伝えることが大事だと思います。行政としては、10年後の想定人数等についても、どうしても丁寧な表を作りたいと思いますが、見る側としては感覚的な数字やポイントを重要視するので、やっぱり本質的な部分を凝縮して情報を伝えることが一番大事だと思います。そのような一手間を取ることによって、こちらとしても情報提供していると言えますし、できるだけ多くの人に感覚的にわかっただけのように思えます。教育長にもご説明いただいています。約4千人いた児童生徒数が約3千人に減りましたということと、10年後にはさらに減って約2千4百人程度になる見込みという数字の部分が、やはり私としても一番頭に残っています。10年後の数字がわかると、15年後、20年後の数字も感覚的に理解することができ、より多くの人に伝わると思います。先日、筑波大学で勉強する機会がありましたが、広報誌で伝わるのは約20%、市のホームページで伝わるのが約15%程度であり、約60%が口コミから伝わるため、やはり口コミを大事にしていかなければ伝わらないということを感じました。口コミで広げようと思うと、わかりやすい数字やイメージをSNS上で発信していくことが大事ではないかと思いました。最後に、やはり地域で小学校がなくなってしまうとなると、地域に子どもがいなくなってしまうという心理にどうしてもなってしまうので、例えば、別の話になってしまいましたが、放課後児童クラブは地域に残す等、そういった議論も平行して、地域に子どもたちを残すというのも方向を打ち出すことによって安心感にもつながるように感じました。

◎市長

ほかにご意見、ご質問がないようですので、「西脇市学校学習環境規模適正化の進捗状況について」を終わります。

◎市長

次に、次第2の協議・調整事項(2)、「令和4年度教育委員会の主要事業の概要について」説明させていただきます。担当課から説明をお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。何かご意見やご質問はございませんか。なお、質疑の回答については後ほどまとめて行います。

○委員

学力の向上について、子どもたちになぜ勉強しないといけないのかという部分から入っていく必要があるように感じています。学力をつけることによって自分の選択肢が増えるということや、学力をつけることによってさまざまな人の役に立つ仕事ができるという観点から、なぜ勉強をして学力を上げていかなければならないとかいう根底の話から丁寧に行っていき、すべての教育において、学力・読解力等を上げていくことが大事だということを伝えていく必要があると思います。また、保護者の方々にも伝えていく必要があると思います。保護者の方の中には、自分の興味のあることに関しては強く突っ込んできますが、興味のないことについては基本的にノータッチな方が多い印象を持っています。やはり家庭学習は非常に大事だと思うので、学校が一生懸命勉強する環境を整えているのに、家庭では環境を整えてないとなると、やはり学校任せになってしまいますので、その辺りも含めて少し尖った言い方にはなりますが、家庭への教育というのも必要だと思います。学力向上については教育委員会で非常に力を入れて取り組んでいただいています。なかなかそれが各家庭に伝わっているのか伝わっていないのかが分からず、悲しい気持ちです。保護者の方と話していても、あまり学力についての話が出てこない。その辺りをもう少し推し進めていく必要があるように思います。また、前回もお話させていただいたのですが、人生100年時代になってきており、高齢者大学の平均年齢が上がってきている中で、勉強したいお年寄りの方もおられるように思います。高齢者大学に行くだけが勉強ではなく、地域のいろいろな活動に参加できるような違う仕組みもつくっていく必要があるように思います。実際のところ、70歳を超えても働かないと生活できないという方もおられると思うので、土日や平日の夜だけ参加できるようなかたちも想定しながら、高齢者の方が学べる機会を増やしていく必要があると思います。具体的な案はなかなか浮かばないですが、別のやり方があってもいいように思います。最後に認定こども園について、給料はたくさんもらえるが、人が足りずし

んどい思いをするということではなかなか人員の定着に結びつかないと思いますので、単純に保育教諭の給与を上げるだけではなく、やはり保育教諭の労働環境自体を整える必要があると思います。昔、こども園の先生に話を聞きましたが、保育園の先生ではなかなか生活が難しいと言っておられました。その方は既に退職されて別の仕事に就いておられますが、将来に向けて希望を持って働けるような環境づくりをお願いしたいと思います。

○委員

しばぎくら幼稚園が令和5年に閉園するということですが、私も子どもを通わせていただいていたのでしばぎくら幼稚園のことはよく知っています。認定こども園の先生の方とお話する機会が以前ありましたが、しばぎくら幼稚園レベルの教育を認定こども園ができるのかというと、なかなかあのレベルまではできないと言われている方もいました。認定こども園の保育教諭の方々を指導・評価していただく先生も頻繁にこども園に訪問されていていろいろとお話をされているということですが、子どもを預かることを中心としている認定こども園が、しばぎくら幼稚園閉園時にどのレベルまでできるのかという点について、私は不安に思っています。

○委員

生涯スポーツ推進事業の方についてです。卓球がメインとなっておりますが、どのような理由があって卓球がメインとなっているのかお聞きしたいです。

○委員

生涯学習課の各種文化芸術活動事業についてです。私の子どもが大学で歌唱のサークルに入っているのですが、新型コロナウイルスの影響で、そのような活動が去年までできていなかったと聞いております。西脇市においてもいろいろな芸術活動をされていると思いますが、今年度及び来年度以降は活動が増えれば嬉しく思います。ぜひ企画を行って、皆さんで芸術活動を行う機会ができればいいなと思いました。また、文化財保存活用推進事業について、埋蔵文化財包蔵地等の周知が記載されていますが、他市町村のホームページを見ると、埋蔵文化財の包蔵地の画像と所在地がわかるようなものになっています。そういった周知方法であれば、埋蔵文化財の場所が一目瞭然になるのではないかと思います。西脇市はまだホームページに掲載されておらず、ファックスで地図を送り返してもらうようなかたちになっています。文化財に限りませんが、今後提供できる情報については、周知方法を工夫いただきたいと思います。

◎市長

各委員からの意見・質問が一通り終わりました。学校教育課から順番に回答をお願いします。

○事務局

学力について、おっしゃる通りなぜ勉強しないといけないのかという根底の部分の指導は非常に大事だと思っております。子どもたちが夢や目標をなかなか持てない時代だということが、子どもたちに向けたアンケートでもはっきり数字として出ていましたので、発達段階に応じて教員がしっかりコミュニケーションを取ることが非常に大事だと思います。具体的には、学級活動・総合的な学習の時間や、市長からの特別授業、来年度も行う予定のプロから学ぶという授業等がありますので、さまざまな分野で活躍されている方からお話をさせていただきたくて、子どもたちに吸収して身につけていただきたいと思います。もう1つ大きな課題として、家庭学習の話がありました。昨日の教育フォーラムの中でも、保護者の方で非常に頑張っている方おられる一方で、家庭内でネガティブな意見が多く出されることもあり、そこを変えていくことも大事だというご意見もいただいております。ただ、現実的には保護者の方も日頃のお仕事等で忙しい部分があると思いますので、学校としてできることとして、4月、5月の総会や授業参観日等の中で、そのような視点からまず教職員で話をしておいて、子どもたちが楽しんで学べるようタブレットを使いながらコミュニケーションを図るところが家庭学習等にも結びつくかということをご地道に重ねていきたいと考えています。

○事務局

しばぎくら幼稚園は令和5年の3月をもって閉園ということになりますので、残り1年4か月で閉園になります。しばぎくら幼稚園の教育ということで言われていましたが、就学前教育の質の向上で推進している内容については、しばぎくら幼稚園の教育ではなく就学前教育保育カリキュラムに基づいた幼児教育です。しばぎくら幼稚園も素晴らしい教育をしていただいておりますが、しばぎくら幼稚園の教育を目指しているのではなく、目指しているのはあくまで就学前教育保育カリキュラムに基づいた幼児教育になりますので、その辺りについてはご理解いただきたいと思っております。また、認定こども園の先生を評価する先生に来ていただいてから3年が経っております。こども園の先生方も非常に頑張っておられます。認定こども園も預かるだけではなく、教育に向き合って就学前の保育・教育をしていただいておりますので、こちらでも重ねてご理解をお願いしたいと思います。その中で、やはり保育教諭の先生方の力量等もありますので、できるだけ全ての先生方が就学前教育保育のカリキュラムに則って行っていただけるよう、今後も頑張っていきたいと思っております。また、保育教諭の労働環境についてもご意見をいただきましたが、小中学校の先生方と同じく、やはり勤務の適正化は非常に大事だと思います。ただ、やはりさまざまな要素がありますので、一足飛びに勤務時間を短くすることはできていませんが、こども園と連携しながら、

少しでも改善できるようなかたちで頑張っていきたいと思っています。

○事務局

次に生涯学習課です。文化芸術活動を増やしてほしいというところですが、こちらは教育委員会としても非常に難しいところです。現在、文化連盟をはじめとした文化団体や、スポーツも含めた体育協会内の団体が非常に高年齢化しておりまして、非常に頑張っただいただいている一方で、後継者があまり入ってこないため、課題となっています。活動されている若い方を中心に声かけをして、他市で頑張っておられる方を含めて掘り起こしから始めています。文化連盟や体育協会とも連携しながら広めていき、いろいろな活動をしていきたいと思っておりますが、生活形態の多様化から自分の趣味に時間を費やしたいという方が増えており、参加したくないという方も増えているのも実情であり、今後の課題になってくると思っています。また、文化財包蔵地の周知についてもご指摘をいただきました。さっそく生活文化総合センターに確認して、ホームページに掲載させていただきたいと思っております。現在は問合せがあつてから包蔵地を周知するような方法になっておりますので、実際に個人の方でもわからずに届け出なく家を建てられる可能性もありますので、周知は非常に大切だということで、早速生活文化総合センターに指示したいと思っております。最後に、中央公民館の高齢者大学の件につきましては、新任の市議会議員に向けた説明会でも話題に挙がりました。10年ほど前は60代の方が多かったですが、現在はほとんどが70代以上ということで、60代の方は現在働かれています方が多いということで、今後どのようにしていくかという課題があります。地域の活動で参加していただけるような場所を提供することもしていかなければならないのですが、反対に、伝統的な活動の廃止・縮小等で地域の活動自体が少なくなってきています。なくすところはなくしながら、継続や拡充できる部分も含めて検討していきたいと思っております。高齢者大学の学生を増やすために、多種多様な時間帯への対応等も含めて、高齢者大学の実行委員会と調整していきたいと思っています。

○事務局

次にスポーツ振興室です。高齢者から若い方まで親しみやすい点や、オーストラリアの卓球チームのホストタウンになっている関係、福原選手がオリンピックに出場したときの卓球日本代表監督をされていた西村卓二先生が西脇市黒田庄町出身の方というご縁もあり、卓球を強調させていただいております。卓球だけでなく、さまざまなスポーツを広めていきたいですが、中心にして卓球を据えさせていただいております。また、企業から卓球台を約20台寄贈いただきましたので、総合市民センターの卓球台を寄贈品に変えさせていただきました。古い卓球台は市内80町のうち手を挙げていただいた町にお渡しすることとしましたが、20数

町から卓球台から手を挙げていただきました。中には2台希望されるような熱心な町もありました。裾野の広いスポーツということで卓球を挙げさせていただいております。

◎市長

ほかにご意見がないようですので、「令和4年度教育委員会の主要事業の概要について」を終わります。

◎市長

次に、次第3「その他」に移ります。教育委員の方々から、聞きたいことや気になる点等ございましたら順番にお願いします。

○委員

先ほどの合唱の話になりますが、私の子どもは小学校から高校まで運動部に入っていましたので、大学でも運動をしようと思っていましたが、長男が合唱サークルに入ったということで、一度聞きに行きました。男声合唱だったのですが、迫力があり非常に衝撃を受けました。その様子を次男が見ており、次男も長男と同様に合唱をやるとということで、芸術もいいものだなと思いました。高砂市等では、子どもから大人まで参加できるいろいろな合唱団が継続して行われております。市民会館や兵庫県芸術会館文化センター等の会場で活動を行われております。西脇市でも、そのような引き継げる文化活動があればいいなと思っています。

○事務局

西脇市にも市の吹奏楽団と合唱団がありますが、他市町のように活動が活発ではないということで、今後検討していきたいと思います。

○委員

年に2回学校訪問に行かせていただいた時の個人的な感想になりますが、半日という短い時間で見に行くことができなかつた学校も中にはありますが、全体的に校長先生自体がよく動かれている学校は、とても落ち着いていて学校の元気も良くて子どもたちも元気だなという印象を持ちました。子どもたちと先生の距離感が近い学校は学習等のレベルも高くなるということを知ったことがあります。学校で一番長となる校長先生が子どもたちに気軽に話しかけていて、校長室も開放されており好感を持ちました。また、先ほどのお話につながりますが、私も絵を描く機会がありまして、ここ10年ほど筆を置いていましたが、子どもたちの素晴らしい絵を見て感化されて、絵を描きたいという気持ちになり、学校訪問は自分自身のためにもなったという感想があります。絵画を再び始めて、作品ができれば市展等に出展したいと思っています。

○委員

先日、中学校の朝の立ち当番に行きましたが、割と皆さん挨拶をしてくれて、男女問わず恥ずかしくせずに挨拶をしてくれたので嬉しく思い

ました。学校生活の中で心配することも多々ありますが、朝の挨拶が重要だという話は前回の定例教育委員会でも話されていたところで、一安心しました。

◎市長

北海道の富良野市が西脇市の姉妹都市となっておりますが、以前富良野市の方が来られた際に、小中学校の児童生徒が知らない人にもしっかりと挨拶する光景は富良野市にはあまりなく、素晴らしいと褒めていただいたこともありました。

○委員

この間息子が休みの日に帰ってきたので一緒にご飯を食べたのですが、息子は営業職に就いていて、良い成果も出ており充実している様子でした。息子に営業のことについて聞くと、さまざまな企業の商材を扱っているらしいのですが、丁寧な提案書をつくり特徴を説明していると、取引先から今使っているものについて困っていること等を言ってくれるようです。そのようなときに、取引先が使っているものを否定しないやり方で営業を行えば、商材が売れたということを言っていました。これは教育にも同じ事が言えるように思いました。子どもたちがやっていることをかたくなに否定し怒ってしまうと萎縮してしまいますので、相手のことを知って何が困っているのか、何をやっているのかということのリサーチして信頼関係をつないでいくことが大事だと感じました。息子は大学在学中に小学校の自然学校の指導員等のお手伝いもさせていただく機会等もあったのですが、そのときに教育学部だと他の学部の人と比べて、他の学部の人と話す機会が限られて、視野がとても狭くなってしまうと言っていました。やはり教員を目指される学生の方にはいろいろな視野を持って子どもたちに教えてほしいと思います。また、私事にはなりますが、市長・教育長にもお世話になりましたが、陸上の田中希実選手とご一緒する機会がありまして、今度は野球で巨人にドラフトで指名された翁田選手と会う機会があるのですが、身近に子どもたちがそのような方を見て、経験談等を受け止めることが非常に良い勉強になると思います。

◎市長

いいお話をいただきました。委員にはアイガモ農法で小学校の活動でもお世話になっております。今後ともよろしく願いいたします。素晴らしい議論をいただきありがとうございました。最後に、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

今年度の総合教育会議につきましては緊急の場合を除いて終了の予定としております。また、来年度の総合教育会議につきましては開催時期

詳細が決まり次第ご連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◎市長

それでは、これもちまして、令和3年度第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————